

スマイル

明生リハビリテーション病院季刊誌 Vol.8



Photo
7月1日
病棟
七夕会にて

Contents

- 2P 健康コラム 山田総院長
- 3P 七夕会
- 4・5P 看護部新人職員紹介
- 6P 訪問リハビリ
地域医療連携室かわら版
- 7P 勉強会・介護百人一首
- 8P リハビリアルバム



第1回 山田 達夫の健康コラム

社団法人巨樹の会 関東統括本部長 山田 達夫

回復期リハビリテーション病院と認知症

昨年、明確な理由も告げられることなく、私はグループ病院のリーダー蒲池真澄会長から、社団法人巨樹の会での物忘れ外来開設の指示を受けました。それに従い、2か所(明生病院と宇都宮リハビリテーション病院)で物忘れ外来をオープンさせ、今やそれぞれの外来では着実に患者数が増加しています。明生では山中副院長、宇都宮では荒木医師の協力で週1日行われています。

まさに会長は「慧眼の士」と言わざるをえません。高齢者が多い亜急性期病院では認知症医療・介護は日常的に実施されねばならないからであります。認知症への対応力があるか否かで、回復期リハでの医療の質は明らかに変わってきます。正直に申しますと私は認知症への取り組みの意味をさほど重視できなかったということがあります。今になって私はこれまで20年間大学で取り組んできた活動をリハビリテーション病院の現場でも新たな視点で行うべき意義を感じたのであります。病院が生き残るには他にはない質の向上が必須でしょうし、それはいずれ診療報酬に反映されるでしょう。

誰もが認知症の基本的知識として知っておくべき事項をこれからのシリーズでお話申し上げます。私は認知症専門医とは認定されていますが、まだまだ未熟者です。誤った表現もあるかもしれませんが、実践に役立つ内容を取り上げたいと思います。

認知症になるとということ 記憶がとぎれ、現実の感覚が周囲と食い違い、家族の顔もわからず、鏡に映った姿を自分と認識せず会話し、現状では多くの認知症患者が家族にとっていないほうが喜ばれる存在であります。さらに、認知症の方は、物忘れを過少評価し、率直に認めず、いままでできたことができなくなり、極度に孤独で、不安になります。家庭や社会で役割を失い、周囲から特別視され、日常的にしかられ続け、自己の尊厳を失い、今度は家族の介護うつを誘発する存在ともみなされています。

何が求められているか? 今や認知症は400万人、軽度認知障害は200万人、合計600万人への医療・介護面での対策のみならず国家財政の健全化を図るための根拠ある予防法の開発が強く求められています。実際、米国のデータからは認知症の発症を5年遅らせると医療費は半分になるといわれています。

ならば予防は可能か? エビデンスレベルの高い一次予防法は確定していません。研究計画の難しさから確定的予防法は見つかっていません。多分有効であろうという程度の結論ではありますがやらないよりもましであろうと思います。アルツハイマー病予防については(1)有酸素運動、(2)地中海食、(3)レジャー活動の3つが予防対策のキーワードであります。

次号につづく

七夕会、盛り上がりました!

リハビリテーション科
理学療法士 勝田 拓美



7月1日に七夕会が開催され、多くの患者様やご家族の方に参加して頂きました。事前に出し物やゲームの内容を考え、皆様に楽しんで頂けるように準備してきました。また、患者様にも数ヶ月前からホールにて飾り付けを手伝って頂き、全員で準備をして当日を迎えました。

当日は、合唱やリハビリスタッフの踊り、病棟スタッフによる炭坑節・東京音頭と一緒に踊ったり、ゲームとして『風船送り』を行いました。日常ではみることのできない表情をされている患者様もおりました。

普段は、リハビリに一生懸命に取り組んでる患者様も、この日はゆっくりと楽しんで過ごせたのではないかと思います。リハビリ以

外でも、一人一人が日常で何か楽しみになるような事を見つけられればと思います。また入院中は生活の変化が少なく、季節を感じる機会が少なくなりがちです。このような行事を通して患者様に日本の四季を少しでも感じてもらえたら嬉しく思います。七夕の笹の葉には皆様の願い事が書かれた短冊がたくさん吊るされていました。一番多く書かれた願い事はやはり「健康」についてでした。

患者様には一日も早く元気になってもらい、われわれスタッフもその願いの一役に少しでもなれればと思います。今後も患者様の身体機能の向上はもちろん、楽しんで参加や活動ができるような行事や生活の場を作っていければと思っています。

新入職員紹介

Introdaction of new stuff

本年度も新たな仲間が増えました。
志をともにするスタッフの増員でますます皆様のリハビリをよりよいものにして参ります。



2階病棟 看護師

荒井 真紀子

この春に横浜からこの所沢に引っ越し、こちらの病院で働かせていただいております。
回復期病棟リハビリという分野は初めてなので、聞き慣れない言葉も多く大変ですが、徐々に学ぶ楽しさも味わっています。
リハビリ看護をもっと理解し、患者様から身体的・精神的に頼られるリハビリナースになれるよう頑張りたいと思います。

2階病棟 看護師

諸岡 亮子

回復期の患者様とじっくり関わりたくて群馬の急性期病院からやってきました。
新しい生活にも早く慣れ、回復期リハサービスにおける多職種との協働とチームアプローチを実践し、患者様の生活の質に添った援助ができるように頑張りたいと思います。
宜しくお願い致します。



2階病棟 ケアワーカー

大高 裕二

4月17日に入社した大高と申します。
回復期病棟ではまだまだ分からない事がたくさんありますが、いろいろな勉強をして、早く患者様のお役に立てるように頑張りたいと思っています。職場の皆様には、いろいろご迷惑をおかけする点が多々あると思いますが、自分なりに努力していきたいと思っています。今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。



2階病棟 ケアワーカー

山本 ひとみ

私が小さかった頃、大好きだったおばあちゃんが2年間も寝たきりでした。当時は何もできず、ただ見るだけですごい悔しい気持ちになりました。今、この職業を通して、患者様と関わることができて、とてもやりがいを感じて楽しく仕事をやらせていただいています。
これからも色々ご迷惑をおかけすると思いますが、少しでも病院の力になれるよう、頑張っていきたいと思っていますので、宜しくお願い致します。



3階病棟 看護師

稲葉 隆治

明生リハビリテーション病院へ勤務となり、2ヶ月が過ぎた。
その中で、患者様やご家族様へ必要な看護や援助を行うには、「チーム医療」が大切であると実感した。障害を持った患者様の身体面、心理面の変化は日々変わり、著しいこともあるそれらの情報を医療スタッフが共有し合うことで必要な援助を提供することへとつながる。密にコミュニケーションをとり、また日々学んだことを今後の看護で実践していきたいと思っています。



3階病棟 看護師

小指 絵利奈

1ヶ月経ちました。初めは不安でいっぱいでしたが、丁寧に指導して頂いて慣れることが出来ました。日々のリハビリを通して立てなかった、歩けなかった患者様が立てるようになり、歩けるようになる姿に感動し、患者様の頑張っている姿に励まされます。
また、その過程に携わることが出来て大変嬉しいです。これからも頑張りますので、宜しくお願い致します。



3階病棟 看護師

山田 麻美

はじめまして、6月から看護師として3階病棟で勤務させて頂いております、山田麻美と申します。これまで、急性期と慢性期の病棟で勤務してまいりました。一般病棟では、現疾患の治療が優先され、限られたリハビリ時間と生活環境になってしまいます。環境条件によっては、残存機能がより活かせ、ADLアップが図れる、そしてQOLが高まると思います。こちらの回復期リハビリテーション病院の365日リハビリが行える、生活自体がリハビリだという方針に感銘を受けました。明生リハビリテーション病院に勤めて、患者様の努力と日々向上してゆく機能に驚いています。患者様が安全にリハビリを続けられるよう、援助させて頂きたいと思っています。これからも宜しくお願い致します。



3階病棟 看護師

渡部 典江

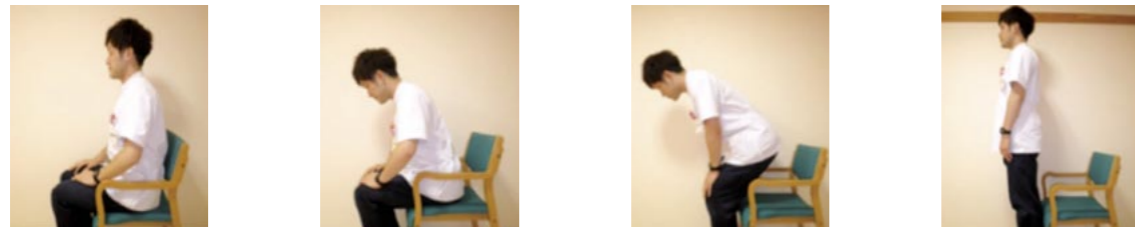
リハビリ病院の前は認知症と精神科のほうで働いていました。療養型だったので看取りの看護で、それは何度経験しても慣れないものです。患者様が元気になり退院するまでの間少しでもお手伝いできたらと思い、こちらの病院でお世話になることにしました。一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。



訪問リハビリ Report of rehabilitation visits リハビリテーション科 理学療法士 宮野 貴幸

まだまだ暑い日が続いております。これから秋を迎えるにあたり、「食欲・読書の秋」と言いますが訪問リハビリテーションでは「運動の秋」と題して、ご自宅でも気軽に実施できる運動について一部ご紹介致します。日常動作の基盤となる筋肉を鍛える事が生活の質を高めると言われております。具体的には太ももやお尻の筋肉、腹筋、背筋などがあげられます。これらの筋肉を鍛えるため

に行えるトレーニング法として椅子から立ち上がって座る「椅子スクワット」があります。通常のスクワットよりも膝への負担が小さく安全に実施でき、足腰を鍛えることができます。実施の際のポイントは胸を張って姿勢を意識し、ゆっくりと動作を行う事です。現在使用されている椅子で実施してみたいかかでしょうか？



※個人差がありますので、実施する際は必ず安全な場所・適切な頻度、そして無理をしないように実施して下さい。

地域医療連携室かわら版 Information

全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会では、医師、看護師、療法士、ソーシャルワーカーなどが、それぞれの立場からよりよい医療を目指した指針としての「10か条宣言」を掲げています。その中で、地域医療連携

室に勤務するソーシャルワーカーとしての10か条をご紹介します。他職種の10か条に関しては、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会のホームページをご覧ください。

ソーシャルワーカー 10か条宣言

- 「相談」の専門職として、しっかり患者さん・ご家族の相談にのろう
- 身近で相談しやすい存在として病棟に顔を出し、こちらからも声をかけよう
- その人らしい生活とは何かをアセスメントしよう
- 障害受容の過程を支援しよう
- 患者さんの自己決定に基づいた退院援助をしよう
- リハビリテーションチームの一員として相談援助のプロセスをチームと共有しよう
- 退院後の生活を常に気にかけて援助しよう
- カンファレンスでは、患者さん・ご家族のニーズを把握し、代弁しよう
- 常に最新の社会資源の情報収集・情報提供、新しい社会資源の発掘を心がけよう
- 地域との窓口になり、回復期リハビリテーション病棟の理念を地域に啓発しよう

明生リハビリテーション病院地域医療連携室では、以上の10か条を常に念頭に置き、日々努力してまいります。今後とも、よろしくお願い致します。

接遇マナー研修

2階病棟クラーク
濱田 亜季

5月10日、蒲田リハビリテーション病院 医療連携室室長 近藤 美恵さんにお越し頂き、日々業務で使う言葉や対応は接遇になっているのかを今一度考えることができました。

接遇とは文字の通り“遇する”という言葉が入っています。遇するとは「もてなす」という意味です。接遇は相手をもてなし思いやる気持ちを持って対応することです。

勉強会ではお辞儀の仕方や角度・電話対応・敬語の正しい使い方などを実践し、改めて、自分が出来ていないことが分かりました。

今後は意識的に正しい言葉使いや丁寧な電話対応にし、患者様やご家族の方々により気持ちのこもった対応・接遇を心掛けていきたいと思いました。



介護百人一首 Kaigo hyakuninisshu

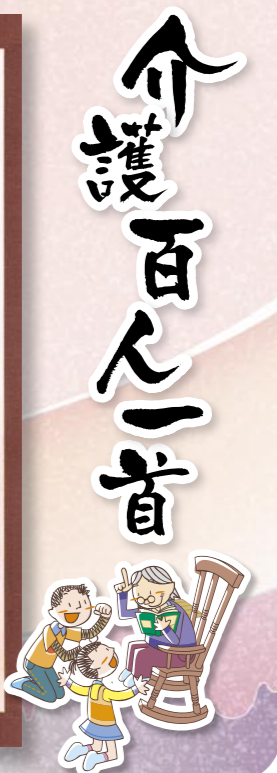
「NHK介護百人一首 作品のご応募・お問い合わせ」
〒150-8328 東京都渋谷区宇田川町41-1 NHKサービスセンター「NHK介護百人一首」係
TEL 03-3464-5601 (受付時間 平日午前10時から午後6時30分)
インターネットでも応募は「こちら」から <http://www.nhk.or.jp/heart-pj/event/>

私の母(98歳)が今年老人ホームからお正月に一時帰宅した時の光景です。家族全員笑顔になりました。ドッグセラピーと聞かれますが本当に嬉しかったです。

愛犬に頬ペロペロとなめられて
おむつ交換笑顔に変わる

介護入浴の妻は、仲と同じ名前の若いやさしい男性介護士が担当と知らされた時から、喜びをまじり入浴が済んで戻って来た時は10歳も若返って笑みいっぱいでした。妻に生きる喜びを与えてくれた介護士「たかし」さんに感謝。

子と同じ名の介護士のやさしさに
妻は甘えて入浴介護





明生リハビリテーション病院
リハビリアルバム



社団法人 巨樹の会

明生リハビリテーション病院

〒359-1106 埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2681-2

[西武池袋線] 狭山ヶ丘駅東口下車 徒歩 15分

タクシーをご利用の場合

西武池袋線小手指駅北口より約5分

お問い合わせ

TEL 04-2929-2220

FAX 04-2939-2136

交通のご案内

